

## 伝統工芸を活かした地域活性化への取り組み：鎌倉彫資料館10年の活動をふりかえって

著者	田村 沙理
出版者	法政大学資格課程
雑誌名	法政大学資格課程年報
巻	9
ページ	21-29
発行年	2020-03-31
URL	<a href="http://doi.org/10.15002/00023057">http://doi.org/10.15002/00023057</a>

# 伝統工芸を活かした地域活性化への取り組み

## ——鎌倉彫資料館 10 年の活動をふりかえって——

鎌倉彫資料館学芸員 田村沙理

### はじめに

鎌倉彫資料館（以下、「当館」と表記）は、鎌倉の伝統工芸「鎌倉彫」を中心としたコレクションを収蔵する博物館相当施設である。

昭和 52（1977）年、当館は鎌倉彫に関連する資料を収集・保存、調査研究する場として、辻説法通りにあった旧三井家私設画廊を改修し、開館した。開館当初は、「鎌倉彫資料庫」として、鎌倉彫制作を学ぶ、鎌倉彫教授会の会員のみが利用できる非公開の施設であったが、その後「鎌倉彫資料館」と名称を改め、一般公開された（写真 1）。平成 17（2005）年には、施設の老朽化が深刻になり、現在の鎌倉彫会館内に移設された。鎌倉彫会館（以下、「会館」と表記）は、鎌倉彫普及のための活動拠点として、昭和 43（1968）年に鎌倉彫協同組合によって開設された施設で、JR 鎌倉駅東口から徒歩 5 分の若宮大路沿いに位置している。当館も、鎌倉彫協同組合の事業のひとつであり、開館当初から同組合によって運営されている。

当館の展示活動は、年間を通じた鎌倉彫の歴史を紹介する通史展示と年に 1 回程度の鎌倉彫に関わるさまざまなテーマの企画展・特別展である。また、会館移設後は、教育普及事業の一環として「鎌倉彫 2 時間彫刻体験」ワークショップを定期的に行っている。

当館の活動は、ここ 10 年で大きく変化した。その要因には、伝統工芸「鎌倉彫」を取り巻く環境が年々

厳しくなっていることと密接に関わっている。この環境を改善するための新しい試みとして、平成 27（2015）年から当館は伝統工芸を活かした地域活性化への取り組みを始めた。本稿では、当館の 10 年間の活動をふりかえり、鎌倉彫を取り巻く環境の変化からこの取り組みに至った経緯を示し、これまで実施した主な事業を紹介する。

### 10 年前の鎌倉彫資料館

平成 17（2005）年、会館に移設された後、当館の展示室は 1 階、収蔵庫は 3 階、学芸室及び作業室は 4 階に設けられていた。それぞれが離れているために、展示替え作業や移動を伴う作業が非効率的であった。しかし、それ以上に問題があったのは、展示・保存環境である。展示室が会館のエントランスと直結しており（写真 2・3）、展示ケースもノンエアタイトのものであったため（写真 4）、展示空間内に外気が直接入る状態であった。その結果、温度と湿度の管理が行き届かず、ケース内に虫が侵入することも頻繁にあった。また、窓の多い 1 階に展示室が設置されていたために、時間帯によっては外光が直接資料に当たる場合もあった。さらに、照明は、個別調光ができないハロゲンランプを使用していた。このような環境から、他館へ資料の借用を依頼するのは難しく、年に 1 回の企画展・特別展も当館のコレクションのみで開催せざるをえない状況であった。

資料の多くは、鎌倉彫協同組合が結成時から少しずつ購入、または制作（複製や工程見本等）して集められてきたものである。もともと鎌倉彫制作講習会に通う方々を対象とした施設だったため、教材用の複製品や工程見本は充実していた。これらを常設展に活用し、制作工程の展示と通史展示を行っていた。

普及事業では、移設後より始めた「鎌倉彫 2 時間彫刻体験」ワークショップを定期的に行っていた。その他に、夏休み期間中の 2 日間、小学校 4 年生～中学生を対象にした彫刻体験ワークショップと館長の実演解説を組み合わせた特別子どもプログラムを実施していた。

以上が当時の主な当館の活動であった。このころは、行政や市内の教育機関等と連携することもなく、学芸



写真 1 昭和 60（1985）年頃の鎌倉彫資料館



写真2 10年前の鎌倉彫会館入口

員は常勤、非常勤1人ずつの体制で、当館単独での小規模な展示活動・普及事業を行っていた。

## 鎌倉彫を取り巻く環境の変化

ここで当館の過去10年の入館者状況を見てみる(図1)。入館者数は、平成21(2009)年をピークに徐々に減少し、平成24(2012)年から大幅に落ち込んでいった。平成25(2013)年以降は、入館者数が年間1万人を切ってその後も減少に歯止めはかからず、鎌倉彫協同組合は危機感を持つようになった。さらに、講習会産業や製造業の状況も見ても、同時期の講習会の会員数(図2)と同組合員の生産額(図3)も当館の入館者数と同様に右肩下がりとなっていることがわかる。このように鎌倉彫産業全体でも不振が続き、近年低迷

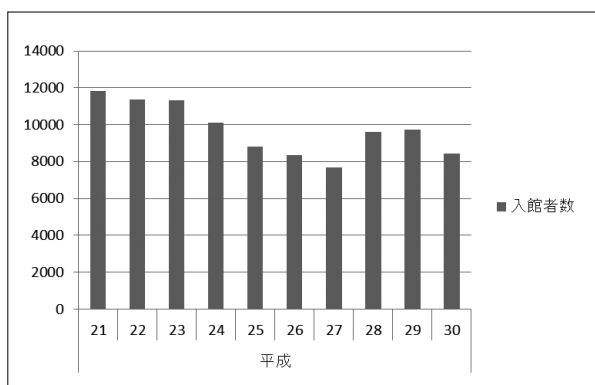


図1 鎌倉彫資料館入館者数推移

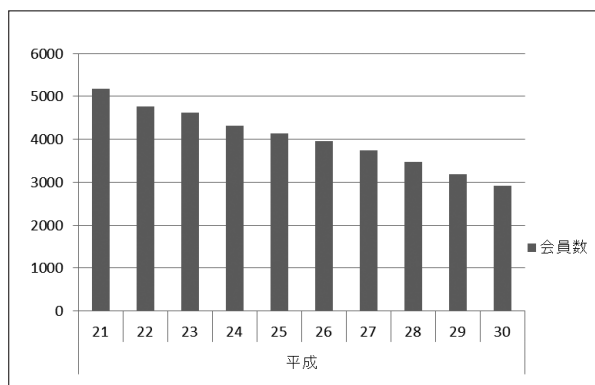


図2 鎌倉彫教授会会員数推移



写真3 10年前の資料館入口



写真4 10年前の資料館展示室

期を迎えている。この要因として、生活様式の変化による漆器を使わない家庭の増加、低コストで生産できるウレタン塗装などの合成漆器の普及、鎌倉彫における高価で古くさい食器というマイナスイメージの蔓延等が挙げられる。つまり、このような鎌倉彫を取り巻く環境の変化は、鎌倉彫の魅力・価値に対する認識低下を招き、業界全体に深刻なダメージを与えている。したがって、鎌倉彫の魅力・価値を再認識してもらい、需要喚起を図る新しい試みを行う必要があった。

## 鎌倉彫会館の「地域コミュニティ施設」リニューアルに向けて

鎌倉彫協同組合では、前述ような状況を背景に会館

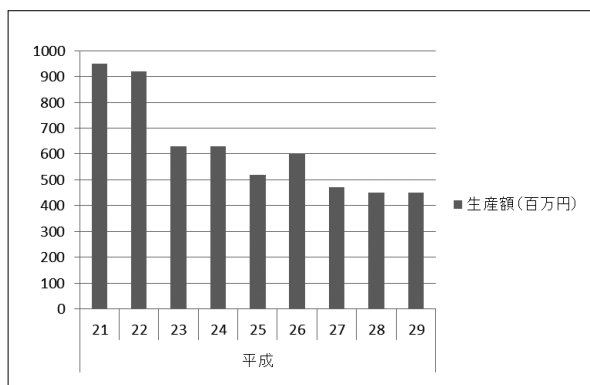


図3 鎌倉彫協同組合員生産額推計推移



の施設機能を拡大し、講習会以外の活用方法を検討する動きが出てくるようになった。このころにはすでに鎌倉彫講習会の開催数が減少し、会館の教室利用率が以前に比べて5割程度になっていたこともあり、広く開かれた施設としてリニューアルすることに同組合員の関心が高まっていった。一方で、開設以来、初めて施設の方向性が変わることに反対意見も少なくはなかった。しかし、最終的に鎌倉彫協同組合は、会館が鎌倉彫を通して地域に貢献するための「地域コミュニティ施設」となることを基本方針に加え、リニューアルを決めた。そして、このような施設づくりに向けて、会館が加入する八幡宮前商店会へ連携協力を働きかけ、鎌倉市に支援を要請した。

### 商店会と新しい鎌倉彫会館の役割協議

鎌倉彫協同組合と八幡宮前商店会は、地域のニーズや商店街のビジョンを踏まえ、新しい会館のあり方について検討を重ねた。八幡宮前商店会は、若宮大路沿いに位置する八幡宮前商店街の店舗から構成されている。近隣にある小町通り商店街は、観光の中心地として人通りが多く、毎年活発さを増しているのに比べて、八幡宮前商店街は空き店舗があり、売り上げも減少していた。このような状況と八幡宮前商店会の地域住民の意識調査に基づき、新しい会館が地域コミュニティ施設として以下のような役割を担うことを定め、同商店会と連携を深めていくことになった。

- 商店街エリアの地域住民が集まり交流できる場所
- 災害などが発生した場合の一時避難場所
- 観光客の利用増加をめざした魅力的な観光スポット
- トイレを解放し、気軽に立ち寄ってもらえる場所

### 鎌倉市の鎌倉彫会館リニューアルに対する位置づけ

鎌倉市は、「鎌倉市商工業振興指針」において、市の取り組みとして「地域の特性を生かした商店街づくり」（商店街が「物販・サービスの場」「憩いと楽しみの場」「まちの顔」「地域コミュニティの核」となるような支援）、「伝統工芸などの保存・継承、事業活動の支援」（鎌倉彫の保護・育成を目的とした事業活動の支援）を掲

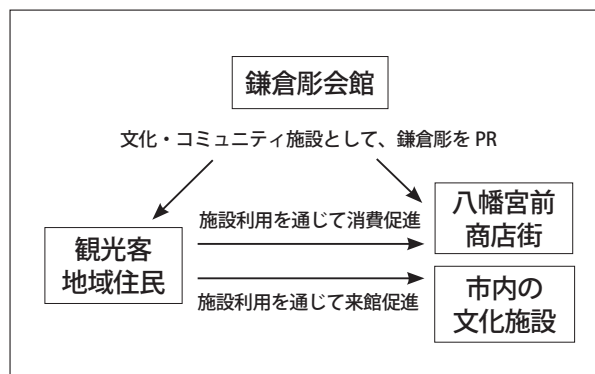


図4 鎌倉彫を活かした地域活性化への取り組み方針イメージ

げている。したがって、会館リニューアルは市の指針に基づいた事業として位置づけられ、行政の支援を受けて進められることになった。

### 伝統工芸を活かした地域活性化の取り組みへ

平成27（2015）年、鎌倉彫協同組合は鎌倉市の支援と商店会との連携のもと、会館を地域コミュニティ施設にリニューアル整備する事業を中小企業庁の補助金（地域商業自立促進事業）の助成を得て実施した。リニューアル後は、観光客や地域住民の施設利用を通して鎌倉彫のPRを行い、商店街への消費促進や他の文化施設の利用につなげることを取り組み方針として定め、鎌倉彫産業の振興と地域活性化をめざしていくこととなった（図4）。

### 鎌倉彫会館リニューアル

#### 鎌倉彫会館の概要

会館は、鎌倉彫の保存と普及を目的に高度経済成長期から盛んになった鎌倉彫制作講習会の活動拠点として、昭和43（1968）年に鎌倉彫協同組合によって開設された施設である（写真5）。当時は3階建てで6つの教室、漆工室、和室の他にギャラリーがあり、鎌倉彫制作を中心に、生け花、日本画、料理などの各種講習会にご利用いただいていた。その後、鎌倉彫講習会事業の規模がさらに拡大し利用者が増えたため、昭和47（1972）年に建物の増築とエレベーター設置工事が行われた。平成17（2005）年、老朽化にともない耐震工事が実施され、これに関連して鎌倉彫資料館も同館に移設された。当時の鎌倉彫協同組合の主な事業は、会館内の教室貸し、ギャラリー・鎌倉彫資料館運営、鎌倉彫制作のための材料や道具・組合員による鎌倉彫製品の販売であった。

平成28年（2016）3月、会館はリニューアル工事を終え、鎌倉彫を活かした地域コミュニティ施設として生まれ変わった（写真6）。以下、リニューアルの詳細



写真5 鎌倉彫会館落成式当日

細を紹介する。

### ①鎌倉彫資料館の改修

当館は、会館のリニューアルを機に展示室が1階から3階に移設され、エアタイトの展示ケースや調光可能なLEDを導入し、展示設備も一新した(写真7)。以前のように外気や外光が直接展示室に入ることは無くなり、これまで問題となっていた展示・保存空間は、大幅に改善された。また、展示室の照明は、漆の深い色合いと彫りの陰影が際立つよう最適なライティングが行われ、入館者が作品の魅力を堪能できる展示空間となった。その結果、リニューアル初年度の入館者数は1万人には届かなかったものの、7年ぶりに増加に転じた。さらにその翌年、平成29(2017)年には、



写真6 リニューアル後の鎌倉彫会館入口



写真8 「鎌倉彫2時間彫刻体験」ワークショップ風景



写真10 カフェの精進料理メニュー「とき御膳」

神奈川県立歴史博物館と初めての共催が実現し、仏具をテーマにした特別展を開催した。この年の入館者数は、リニューアル初年度を上回る結果となった(図1)。

### ②ワークショップ専用ルームの設置

空き教室を利用して、彫刻ワークショップを随時開催できるよう専用の部屋を会館3階に設置した(写真8)。このワークショップは、小刀(鎌倉彫用の彫刻刀)を使い、鎌倉彫の基本的な彫刻技法を用いて、2時間で丸盆の彫刻を仕上げる体験教室である。指導に携わるのは、鎌倉彫制作講習会に長年通っているベテランの講師たちであり、体験を通して鎌倉彫制作の楽しさを伝えている。伝統工芸の授業の一環で体験をする小学生から一般観光客まで、幅広い年代の方々が参加を



写真7 現在の資料館展示室



写真9 カフェの特別席

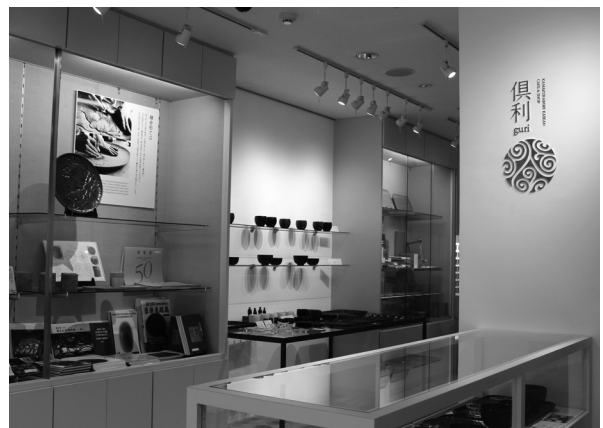


写真11 現在のショップ



している人気のプログラムである。近年は海外観光客の参加もあり、よりスムーズに参加申し込みができるよう対応の準備を進めている。

### ③カフェの設置

観光客や地域住民が気軽に利用できるコミュニティカフェを設置した（写真9）。ここでは、商店街における憩いと楽しみの場をめざすとともに、鎌倉彫の多彩な魅力をアピールし、イメージアップを図っている。料理や喫茶を鎌倉彫の器で提供することで、鎌倉彫の使い心地を利用者に体感してもらっているのだ。提供している定番メニューは、禅宗文化とともに育まれた鎌倉彫にちなんだ、精進料理である（写真10）。また、食器類は鎌倉彫協同組合でプロデュースした製品を用いている。カフェ運営は、鎌倉彫協同組合にとって全く経験のない初めての事業になる。運営に際してまだまだ不慣れな部分もあるが、鎌倉ならではのカフェとして、海外観光客の利用者も増え、さらに地域住民にも徐々に定着している状況である。

### ④ショップの改修

会館のショップは、開設当初より鎌倉彫制作のための道具や材料を販売していたが、このリニューアルを機に規模を拡大した（写真11）。現在は、カフェで使用している食器や食品、ミュージアムグッズ（写真12）、鎌倉彫協同組合員による製品など幅広い商品を



写真12 各種ミュージアムグッズ

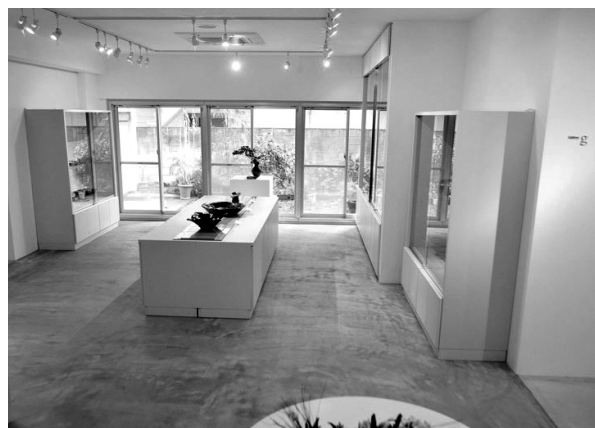


写真13 ギャラリーg

取り扱っており、鎌倉彫用品専門店から地域のアンテナショップとしての役割を担うように変化した。そのため、観光客にトイレを貸し出すなどホスピタリティを意識したサービスの提供も心掛けている。

### ⑤ギャラリーの改修

ギャラリーは、もともと鎌倉彫講習会の会員による作品発表の場であったが、このリニューアルを機に、可動式展示ケースや壁面展示用のピクチャーレールが設置され、鎌倉彫関係以外の方にも利用可能な展示空間となった（写真13）。現在は、鎌倉近隣に在住するアーティストの個展、水彩画や生け花などお稽古の発表の他、鎌倉市が主催するフォトコンテストの展示会場等にもご利用いただいている。

## 地域に根ざした鎌倉彫資料館の活動

リニューアル後、地域のコミュニティ施設の一部となった当館が、地域とともに取り組んでいる事業を紹介する。

### (1) 商店街のアピール

商店街の拠点として商店街をアピールするため、会館の外壁に掲示板を設置し、商店会加入店舗の宣伝やイベントなどの情報発信に利用できるようにした（写真14）。また、鎌倉彫協同組合が主体となって商店会加入店舗と所在地を掲載したパンフレットを作成し、会館内各所、各加入店舗に配布して、商店街への来店促進につなげている（写真15・16）。

### (2) 鎌倉市在住・在学の子どもたちを対象とした鎌倉市補助事業

鎌倉市は、これまでも鎌倉彫普及のための支援を行ってきたが、リニューアル後、子ども向けのワークショップやイベントに関わる補助事業の規模を拡大した。それにともない、補助対象の事業は、手厚い広報支援を受けられるようになった。これらの案内チラシを市内の各学校から児童・生徒1人ずつに配布できることもそのひとつである。その他にも、市の公式SNSや市が発行する広報誌への情報掲載なども有効な広報支援



写真14 商店会用掲示板

となっている。市の補助対象のワークショップやイベントには、毎年合計 300 名を超える子どもたちが参加している。

### ●親子で楽しむ鎌倉彫体験教室

平成 28 (2016) 年～

鎌倉市内在住・在学の小学校 4 年生から中学生の親子を対象に、オリジナルデザインで鎌倉彫作品を制作する彫刻体験教室。彫りを完成させた後に熟練の職人が漆塗りを施すので、作品は本格的な仕上がりとなる(写真 17・18)。子どもたちにとって関わりの深い地域の伝統文化を尊重する心を育てることを目的としている。

### ●鎌倉彫のひみつを探ってみよう！

平成 29 (2017) 年～

鎌倉市内在住・在学の小学生を対象に、鎌倉彫について総合的な学習を行う講座。ワークシートを利用し、

「調べる」「交流する」「使う」3つの体験を通して鎌倉彫を学ぶ。「調べる」では、館長がわかりやすく作品を解説し(写真 19)、「交流する」では、鎌倉彫と関わりがあるゲストが講師となり、ゲストとの交流から鎌倉彫のさまざまな魅力を紹介している(写真 20)。また、「使う」では、毎回テーマに合わせた特別メニューをカフェスタッフと考案し、子どもたちに提供している(写真 21)。彫刻以外のさまざまな体験を通じて、鎌倉彫

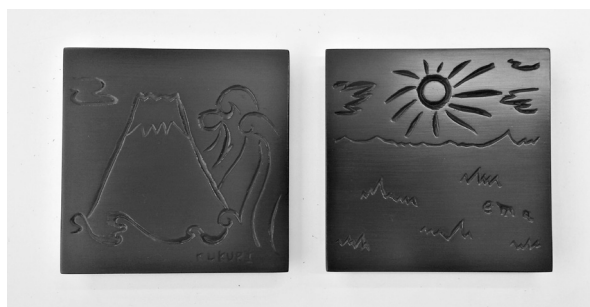
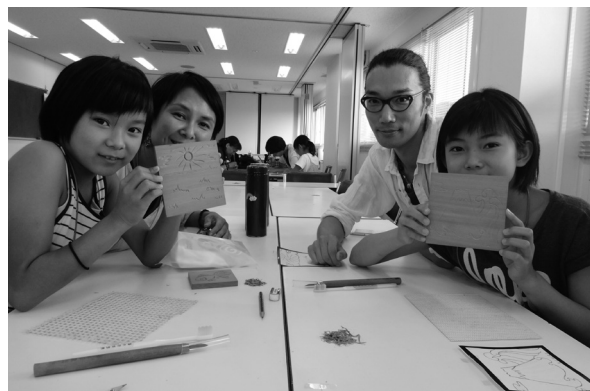


写真 17/18 参加家族と完成作成



写真 19 「調べる」—作品鑑賞



写真 20 「交流する」—ゲストとの交流から学ぶ

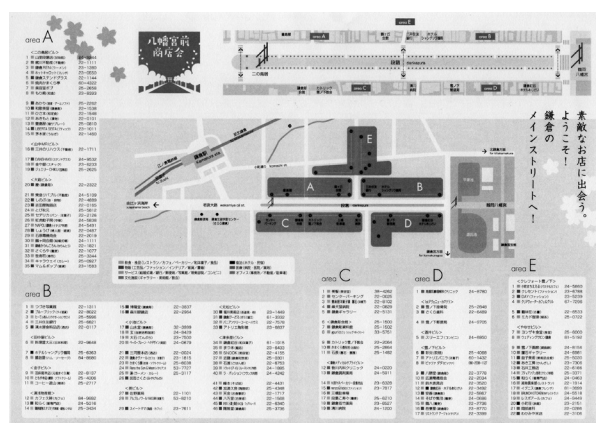


写真 15/16 商店会を紹介するパンフレット



への関心を高めてもらうことを目的としている。

### ●子ども向けサイト「こども鎌倉彫」

平成 31 (2019) 年開設

鎌倉彫学習をサポートするための子ども向けウェブサイト。調べ学習の際に、使用できる子ども向けのパンフレットや書籍がなかったため、学校の先生からの要望もあり、鎌倉市に相談したところ補助事業での制作が決まった。ワークショップなどで当館に来館する子どもたちが、事前事後学習に活用できるコンテンツを提供している (写真 22・23)。また、子ども向けの鎌倉彫に関する情報を発信する場としても活用している。

### (3) 鎌倉市の鎌倉彫 PR 活動

鎌倉市は、市内の子どもたちが参加する補助事業の広報支援の他に、鎌倉彫の PR 活動も積極的に行なっている。

### ●鎌倉彫のパンフレット発行

鎌倉市は、鎌倉彫の歴史、制作工程、店舗、文化施設を紹介するパンフレットを当館監修のもと発行した



写真 21 「使う」— 鎌倉彫の食器で食事



写真 22 こども鎌倉彫サイトのアイコン



写真 23 こども鎌倉彫サイトのコンテンツ

設を紹介するパンフレットを当館監修のもと発行した (写真 24・25)。英語が併記されているため、特に海外観光客向けのパンフレットとして利用される側面が大きい。市内の鎌倉彫を扱う店舗も紹介されており、観光客の来店促進につなげる役割も担っている。

### ●鎌倉駅地下道ギャラリー 50 での展示

JR 鎌倉駅の東口と西口を結ぶ地下道にある鎌倉駅地下道ギャラリー 50 は、市民や観光客など多くの方々が行き交う場所に位置する展示スペースである。この展示スペースは、鎌倉市が所有し、行政機関、行政の関係団体、教育施設、市民団体などがさまざまな展示を行なっている。昨年度より当館も、鎌倉彫の歴史、鎌倉市の補助事業、施設概要のパネルと一部実物資料も併せて展示し、紹介している (写真 26)。

### (4) 鎌倉市内文化施設との連携事業

リニューアル以降、当館は市内文化施設との連携を



写真 24/25 鎌倉市発行「鎌倉彫」パンフレット



強化している。

#### ●北鎌倉葉祥明美術館 令和元（2019）年実施

北鎌倉葉祥明美術館は、絵本作家・葉祥明氏の作品を扱った美術館である。同美術館の学芸員からミュージアムグッズの共同開発について提案があり、葉祥明氏の絵本に出てくるキャラクターをモチーフにした鎌倉彫のミュージアムグッズを制作した(写真27)。また、グッズの完成を記念して、柏木豊司館長（当時）と葉祥明氏の対談イベントを会館で実施した（写真28）。対談イベントの参加者は、当初の予定を超える21名（定員20名）で、そのうちの半数は葉祥明氏のファンだった。会館に初めて来館した方が多く、カフェの雰囲気をととても気に入ってくださった。制作したグッズは、双方のショップで現在も販売中である。

#### ●鎌倉文学館 平成30（2018）年～

長谷に位置する鎌倉文学館には有名なバラ園があり、



写真26 地下道ギャラリー50 展示風景

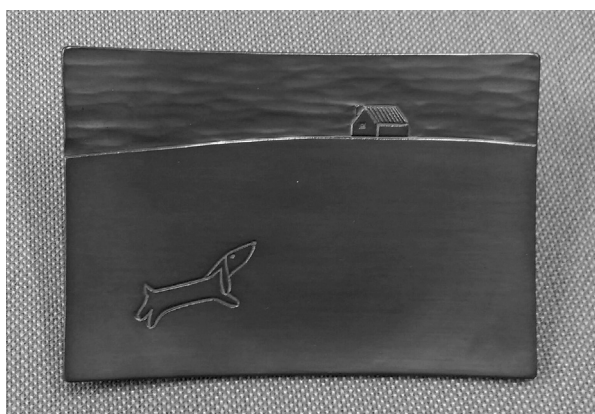


写真27 鎌倉彫銘々皿「ジェイク」



写真28 対談イベント風景

毎年バラの見頃に合わせて春と秋にさまざまな催しを行う「バラまつり」が開催されている。来館者が多いこの期間中に、鎌倉文学館へ出張し、彫刻体験を実施している(写真29)。毎回参加者は、15～20名（定員20名）となっている。バラまつり限定の特別なデザインで体験ができるため、当館で通常の体験ワークショップに参加した方が、バラまつりの体験にも参加するというケースが散見される。

#### ●鎌倉市川喜多映画記念館 令和元（2019）年実施

鎌倉市川喜多映画記念館は、映画の発展に大きく貢献した川喜多夫妻の旧宅跡に開設され、映画資料の展示、映画の上映、映画関連のイベントを行っている記念館である。この度、鎌倉市内の教育系NPO団体から依頼があり、同記念館と合同で職業体験ワークショップの受け入れを行った（写真30）。参加者は、小学校1年生から中学校1年生の12名（定員20名）であった。当館では、鎌倉彫の制作工程を映像で紹介した後に、漆器の取り扱い、調書・キャプション作成の

5月10日(金) ▶ 6月9日(日)

200種  
245株  
のバラを鑑賞ください

鎌倉文学館  
バラまつり2019

コンサート 文学館前庭 雨天時：1階講堂室へ会場変更して開催します。 無料自由

ヴァイオリン&ピアノの  
コンサート  
5月18日(日) 14:00～  
出演：ヴァイオリン：能澤厚子 ピアノ：辻美穂  
予定曲目：クライスラー「テンポ・ディメンタエツト」ほか

言葉と音楽のコンサート  
5月26日(日) 14:00～  
朗読作品：小島八重「鎌倉・江戸島路で」  
朗読：小林聖紀子(俳句)  
作曲：内藤正彦  
演奏：ライトハウスアンサンブル

ワークショップ 鎌倉彫の皿を彫ってみよう！  
5月12日(日) 10:00～12:00  
4月30日(金)必着  
講師：鎌倉彫資料館 講師：柏木豊司氏(鎌倉彫資料館館長)  
定員：16名(お申込は1組5名まで)  
料金：1人2,500円(送料・加工費は別途有りで当日受付)  
会場：鎌倉文学館1階講堂室  
バラまつり開催中の鎌倉文学館で、特別なデザインのバラの皿を作ってみませんか？  
初めての方も気軽にお楽しみいただけます。

事前申込制・有料  
対象：小学校4年生から大人  
※小学生は学年もご記入ください。  
※小学生のみの参加はできません。  
※必ず保護者と一緒に参加してください。  
保護者の方は付添ではなく、受講生に  
含まれます(無料)

ハガキ・メールまたはFAXに、住所・氏名・電話番号・参加希望人数(小学生は学年も)を明記し、宛先までお送りください。  
●ハガキ：〒248-0016 鎌倉市長谷1-5-3 鎌倉文学館(イベント名)宛  
●メール：event2019@kamakura-arts.or.jp  
●FAX：0467-23-5952  
※応募多数の場合は抽選となります。抽選結果は抽選後1週間程度で発表いたします。  
※参加人数はこのイベントの開催に必要の人数に限り、抽選結果により変更される場合があります。

鎌倉俳句&ハイク 庭園の特設カフェ 雨天中止  
平成30年度 年間大賞発表式  
6月29日(日) 11:00～  
会場：文学館前庭  
当日の最優秀者である大賞の表彰式  
を鎌倉文学館前庭で行います。  
主催：鎌倉俳句&ハイク実行委員会

特別展「三島由紀夫『國境の南』の文庫」  
4月25日(金)～7月7日(日) 休館日：4月22日(金)・5月13日(金)・5月14日(土)  
観覧料：大人200円(1400円) 小中学生200円(1400円) 一般500円(3500円)  
鎌倉文学館  
Kamakura Museum of Literature  
観覧時間 9:00～17:00 ※入館は16:30まで  
※休館日 5月13日(金)・5月14日(土)・5月15日(日)  
鎌倉文学館は、鎌倉市川喜多映画記念館と連携して、公共施設として利用できます。

写真29 バラまつり出張彫刻体験ワークショップ案内

職場体験ワークショップ  
こども学芸員

鎌倉市川喜多映画記念館

写真30 ワークショップ参加者の名札見本



写真 31 鎌倉彫資料館（展示室内での動画視聴）



写真 32 鎌倉市川喜多映画記念館（旧和辻邸でのワーク）



写真 33 展示室でのピオラダガンバ演奏会風景



写真 34 演奏会後の食事風景

体験を実施した（写真 31）。また、同記念館では、ポスター資料の展示・チケットもぎりの体験、シアタールーム・映写室・旧和辻邸（旧川喜多邸別邸）の見学を実施した（写真 32）。学芸員の職場体験を通して、市内の文化財や文化施設を知ってもらえる良い機会となった。

#### （5）鎌倉市在住の音楽家・作家のイベント開催

夜間の施設活用として、展示室を会場にした演奏会や講演会を行い、その後カフェの特別ディナーを提供するイベントの開催があった（写真 33・34）。参加者は毎回定員に達し（定員 30 名）、地域住民を中心に遠方より来られた方もいた。昼間とは異なる特別な空間を楽しむことができたという好評だった。

#### 今後の課題

以上のように地域活性化への取り組みとして、当館が実施した事業を紹介した。これらのワークショップやイベントの参加者アンケートでは、当館の存在を初めて知った、あるいは、知っていたがこれまで来館する機会がなかったという方々が半数以上であった。また、リニューアルオープンの初年度と次年度の入館者数は、リニューアルの前年と比べると約 1.3 倍に増加

していた。したがって、リニューアルを契機に当館の活動が活発になったことは、会館の認知向上や新規入館者獲得にある程度の効果があったといえるだろう。しかし、平成 30（2018）年の入館者数を見ると再び減少していることから、平成 28・29（2016・2017）年の入館者数増加は、リニューアルによる一時的なものであるとわかる（図 1）。いくら認知度が向上し、新規入館者の獲得になっても一時的な増加に留まってしまっては意味がない。では、当館のような小規模な施設が、安定した入館者数を維持するには、どうすればよいか。それは、やはり「何回も行きたい・利用したい」と思ってもらえるようなリピーターを獲得することだろう。特に、鎌倉市内に住む地域住民のリピーター獲得が、極めて重要であると考えている。そのためには、一度来館した地域住民の意向調査を行い、その結果に基づき地域住民のニーズに合った魅力的な鎌倉彫の展示、イベント、ワークショップを企画する必要がある。さらに、市内の学校、商店会の店舗、市内の文化施設などでのアウトリーチ活動の強化も視野に入れている。今後も当館は、このような地域活性化に向けた取り組みをより一層充実させ、地域住民のリピーターを獲得し、将来の鎌倉彫職人、鎌倉彫講習会員、鎌倉彫ファンにつながるよう努めていきたい。